

# 香和会報

第5号



会員の皆様こんにちは、いかがお過ごしでしょうか。早いもので第4号の会報でお逢いしてからもう、一年過ぎてしまいました。私も、皆様に助けていただきながら、無事一年を終えることができ、ホッとしています。ただし、数々の失敗談、反省しなければならない点など、たくさんありますが……香和会の仕事を通じて、私自身いろいろな方々と接することができ、大変勉強になっています。改<sup>あらた</sup>なる意欲をもって二年目、頑張りたいと思います。

昨年度の香和会の活動を振りかえってみますと、まず念願の同窓会名簿発行、御希望の方に無料で配布しましたが、手にとってみていかがでしょうか。ページをめくってみて、あなたのお近くに、たくさんの聖徳学園の卒業生がいるので、驚かれていますのではないのでしょうか。50周年記念式典の盛況といい、母校の偉大さを感じ

ますね。聖徳祭のバザーの参加もなかなか好評でした。ただもう少し会員の皆様の笑顔と力をおかりしたかったです。当日は、猫の手もかりたい程の盛況ぶりでした。

今年も秋に総会、聖徳祭に参加と、内容が具体的になってまいりました。会員の皆様も御自分のお仕事、生活とお忙しい事だと思います。とても学生時代を振りかえってみる余裕なんてないワと言わずに「キラキラ」輝いていた学生時代を時々思いだしてみてもは、いかがでしょうか。母校の校舎も、草も木も大きく生まれ変わっていますが、皆様にお逢いできるのを願っていることでしょう。私達、役員一同、香和会の運営にますますはりきるつもりです。ひとりでも多くの皆様にお逢いできますことを心から楽しみにしています。

会長  
鈴木恵子



昭和58年11月香和会総会出席者



▲北海道にて

香和会の皆様には、ご健勝にてご活躍の事とお慶び申し上げます。

母校は昭和8年に創立されて以来、幾多の危機をのりこえ、女子教育、幼児教育に情熱を燃し続けて参りましたが、今年で丁度半世紀を迎えました。去る1月18日、森喜朗文部大臣をはじめとして各界の来賓の方々、学生、生徒、園児、父母それに教職員約850名が日本武道館に集い、創立50周年の式典が盛大に挙行されました。東京交響楽団の演奏をバックに進行され、アーリーには短大生によって「聖」と「和」の人文字

が描かれ感動的なものでした。又、記念曲として、記念讃歌「聖徳の日は新たなり」（作詩・川並弘昭、作曲・近衛秀健）と想園歌「青春の風は胸に鳴る」（作詩・川並弘昭、作曲・黛敏郎）の二曲が披露されました。これらは卒業式・入学式などの式典にすでに活用されており、機会がありましたら、お耳にとめて頂けると幸甚です。

さて、現在母校は短期大学を頂点に、教員養成所、付属高校が二校、付属中学校が二校それに付属幼稚園が六園の12の学校から成っております。短期大学は8科17専攻約4,500名の学生が在籍しており、全国でも有数の短大になりました。これは香和会の皆様方が各々の地域で、あるいは職場で輝やかしい実績をのこしてくださった賜物であると感激しております。

又付属中、高校は、創立50周年の記念事業の一環として、松戸市の秋山と茨城県北相馬郡藤代町に開校されました。カリキュラムの中に小笠原流の礼法が正課として組み込まれ、月曜日から土曜日まで2,000名が食堂に会して給食（本校では会食と云う）をとるなど、ユニークな教育がなされ、マスコミにも取り上げられ話題となっているところです。学園は百年にむかって新たな一歩を踏みだしたのです。名実相伴わぬことのないように傾注して参りたいと思っております。

## 「今こそ和の心を！」

顧問 副島敏子



九十九段を昇り始めてから二昔になろうとしています。学生はこの階段をあまり利用しません。時折ガイドよろしく学生を案内いたします。葛の花の咲く夏、からす瓜の色づく秋、卒業生との生活が昨日のように思い出されます。しかし立派な校舎を見上げる時、またニューヤングといわれる学生を前にするとやはり歳月を感じます。

高度経済成長期に学園生活を送ったみな様は、低成長時代の社会人として、家庭や職場でご奮闘のことと思います。厳しい社会の中で家族崩壊が進行している現状を見ると胸が痛みます。みな様が学園生活でく

くんだ<sup>ニ</sup>和の心が、何より大切な時代のようなです。調理学の立場から申しますと、親から子に伝えられる食文化の断絶が家族機能の分解を促進しているように思われてなりません。家族が本来果たすべき機能が便利のためだけで、安易に企業に委任していませんか。子育て真最中のお母様、<sup>ニ</sup>ホッカホカ食事。をあなたの手でぜひお作り下さいと声を大にして申し上げたいのです。

59  
年度

# 香和会総会 並びに 懇親会開催

第17回香和会総会並びに懇親会を下記のように開催致します。会員の皆様へ直接ご意見・ご希望をお伺いできるよいチャンスと思っております。お忙しい中とは存じますが、お友達お誘いあわせのうえご出席下さい。

1. 日 時：昭和59年11月3日（土）文化の日  
11時より  
(10時50分迄に受付を済ませて下さい)
1. 会 場：聖徳学園短期大学
1. 会 費：3千円

- ※ 10時30分より学内の見学もできます。
- ※ 同封の出欠はがきは、10月6日（土）までにお出し下さい。



## 卒業して4年経つと……………(クラス会だより)



クラス会が盛んに行なわれているようです。その感想を  
第15回卒業生・堀内美佐子さんに報告していただきました。



いつも美しい桂先生と、美しさに磨きをかけている卒業生達。

昨年の11月に第15回卒業生・食物栄養専攻Aクラスのクラス会を行ないました。集まった仲間は約20名、ますます美しさに磨きがかかっていたようです。卒業生として、病院に勤めている人、老人ホームで頑張っている人など桂先生にアドバイスを受けながらの楽しい一時でした。春に母親になるという友の幸せそうな顔を見て、うらやましがる人も数人……。近々、結婚という友もいて、時の速さにもちょっぴり驚きました。雨降りのなかでしたが、懐しい松戸での再会に、遠方からかけつけてくれた友も、大満足の日でした。

香和会では幹事の方の助けになればと、クラス会1カ月前までに連絡して下さい、若干の財政援助等をさせていただきます。どうぞご連絡下さい！

## 第20回 聖徳祭

テーマ 「和」  
日時 12月1日(土)、2日(日)  
10:00~15:00

今年もまた聖徳祭の季節がやってまいります。昨年は多くの方のご参加をいただき、バザーでも参加することができました。特に一足100円のくつ下や他にはない御奉仕価格のトレーナー・バッグ・アクセサリーなど、学生にも好評な品を用意致しました。

さて、今年も香和会ではバザーを企画しております。内容もより充実したものにしたいと考えておりますので、どうぞお立ち寄り下さい。在学生の催しものも、有志・学科・クラブ等盛りだくさんの内容を用意しておりますので、ご家族おそろいでぜひ遊びにおいで下さい。

## 「会員名簿」発行

会員の皆様方の消息をお知らせしたいと、数年来総会の葉書などを利用し、昨年、念願の「会員名簿」を発行することができました。今年度は、18回生の名簿を発行することになりましたが、部数が少ない為18回生以外の方は、希望者のみとさせていただきます。ご希望の方は、方法1でお願い致します。

前回の名簿につきまして、一部の方々住所等が空欄でありましたので、誤りや住所不明の方の住所、その他お気づきの点がございましたら、香和会事務局までお知らせ下さい。

尚、前回の名簿は53年度総会で決定されました通り、無料ではございますが、郵送料等は個人負担とさせていただきます。お受け取りの方法は、下記のいずれかをお選び下さい。

### <方法>

- 1 総会・聖徳祭などで直接受け取る。
- 2 郵送とする。(郵送料その他で450円かかりますので、郵便振替でお送り下さい。)

郵便振替：東京7-16243 聖徳学園短期大学香和会

※B5判、58頁の厚い大きな名簿になりました。ぜひおそばに置いてご活用して下さい。

※昨年度発行の名簿の「訂正版」が出来ましたので、ご入用の方は事務局までご連絡下さい。

- 4月11日(水) 入学式  
オリエンテーション
- 4月16日(月) 授業開始
- 4月23日(月) 新入生歓迎遠足  
1泊2日で6班
- 5月12日(土)
- 4月27日(金) 創立記念日
- 5月27日(日) 学外研修Ⅱ  
(北海道旅行)
- 7月4日(水) 7泊8日で4班
- 7月13日(金) 授業終了
- 7月14日(土) 学外研修Ⅰ  
(志賀高原)
- 7月21日(土) 3泊4日で2班
- 9月1日(土) 授業再開
- 9月17日(月) 前期試験
- 9月29日(土)
- 10月1日(月) 授業開始
- 10月13日(土) 保育表現発表会
- 12月1日(土) 聖徳祭
- 12月2日(日)
- 12月20日(木) 授業終了
- 1月8日(火) 授業再開
- 2月12日(火) 後期試験開始
- 3月23日(土) 卒業式

## 香和会事務室だより

香和会事務室は毎週火・水・木・金曜日の午前10時より午後3時まで行っております。場所は5号館2階の5203室(内線 3511)です。皆様是非お茶を飲むような気軽な気持ちでお立ち寄りの上御助言を給わりたく思います。

### 事務室で出来る事

1. 日常の連絡(火・水・木・金曜日)
2. 名簿の整理及び管理
3. 総会代議員会の下準備及び通知
4. 伝票管理及び決算、予算書の作成
5. その他

# 数字にみる学生の現況

■各学科別在学生数

(59年7月1日現在)

	1年生の	2年生の	合計の	比率
保育科	778	768	1,546	38%
初等教育学科	273	356	629	16%
家政学科	350	269	619	16%
文学科	541	546	1087	27%
音楽科	55	81	136	3%
合計	1,997	2,020	4,017	100%

■学寮人員状況

(59年7月1日現在)

寮	保育	初等	被服	食物	国文	英文	仏文	音楽	音楽	合計	
和心	38	25	5	14	10	22	1	5	1	121	
聖和	41	26	0	14	16	11	0	14	4	126	
富士見	93	75	11	21	26	25	5	15	2	273	
順和	73	50	0	14	22	9	3	／	／	171	
香風	46	41	5	29	18	12	0	／	／	152	
合計	291	217	21	92	92	79	9	34	7	843	
入寮率(%)	18.6	37.0	家政	16.5	文学			16.8	音楽	30.9	20.0

※高校生1名含む

## 昭和58年度 就職状況

●各学科別就職率●

(59年3月末日現在)

	保育	初等	家政	文学	音楽	保育	初等	合計
卒業生数	683	336	194	525	67	26	14	1,845
進学者	19	10	10	31	14	1	0	85
家事	96	102	20	72	12	12	8	318
就職希望者数	568	224	164	422	45	13	6	1,442
就職者数	512	193	161	409	40	11	4	1,324
就職率(%)	90.1	86.1	97.4	94.5	86.5	84.6	66.6	91.8

## 昭和59年3月を以て退職された先生方

教授 大野量平先生・永沢譲次先生  
助教授 田口仁久先生

短期大学初等教育学科長

### 大野量平先生 逝去

本学名誉教授、大野量平先生には、去る4月1日午前6時ごろ逝去されました。

享年76才

先生には、香和会の顧問代表として、前号に原稿を書いていただき、また休職中にもかかわらず、昨年度の総会にも御出席いただきました。

先生のご尽力に深甚の感謝を以ってご生前のご活躍を讃えと共に、ご冥福を心からお祈り申し上げます。

## 香和会の諸姉へ求人等のお願い

会員の皆様方におかれましては、ご家庭の主婦として、また幼稚園・保育園・施設あるいは一般企業など各方面でご活躍されていることと思います。日頃は何かと学園発展の為に協力をお願いし難うございます。心よりお礼申し上げます。

お陰様で今年3月の卒業生は、就職難の折にも拘らず、各方面にほば期待どりの就職をしております。これは諸先輩のご活躍が高くそして広く評価されていることの成果であること、深く感謝をいたしております。

さて、来年3月には約2千余名の卒業生を送り出す予定です。学生第一課では、幼稚園その他各界でご活躍の諸先輩に、一人でも多くの後輩が続き、聖徳の各あらゆるようご協力いただきたいと思います。つきましては、お勤め先やお知り合いのなかで求人がございましたら、是非当課までご一報くださるようお願い致します。良い学生を各界へと教職員一同努力を致しておりますので、よろしくお願い申し上げます。末筆ながら諸姉のご健勝とますますのご活躍を祈ります。

(学生第一課長 山田一穂)



## HAPPY WEDDING

皆様、結婚式に出席なさると今はどこでも「祝電」を披露宴の中に組みこんで、司会の方が読みあげるのを御存知のことと思います。

私達香和会も会員諸姉の結婚式に「祝電」を打つ準備をしているのですが、利用される方が少なく、とても残念に思っております。

どうぞ、ぜひご利用下さい。

♡♡♡利用方法♡♡♡

- 結婚式の住所・式場名・挙式日・時間
- 本人の住所・氏名(旧姓)・卒業年度・クラス
- 結婚後の住所・氏名を、葉書に記入し、学園内香和会室宛に挙式1カ月前までに連絡を下さい。さっそく手配します。  
○あなたの幸福を、香和会からもお祝いさせていただきますませんか？

## 「信州春日温泉かすが荘」について

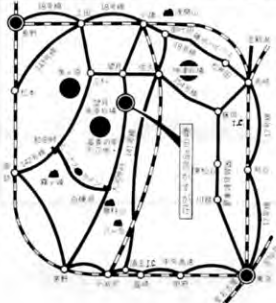
## 附属中学・高等学校プール開き



### ▲かすが荘全景を見渡す

### ◀かすが荘への交通路

香和会の方々にも多数ご利用いただき好評を博しております「聖徳学園山中湖荘」に加え、今度、長野県豊



月町に「信州春日温泉かすが荘」がオープンしました。ふたつの泉質からなる大浴場、研修や講習のためのゼミナール室、総合体育館、温水プールなどがございます。山中湖荘同様のご利用をお待ちしております。

以下概略をお知らせいたします。

**所在地** 〒384-22長野県北佐久郡豊月町春日温泉  
**施設概要** 収容人員約250名、鉄筋4階建、総合体育館、温水プール、セミナー室、大広間(150人収容)、大浴室、(サウナ室・超音波パイラバス)、中浴室、他。

### 利用期間

年中無休(ただし学園指定日を除く)

利用者は2名以上を原則とする。

区分	金額円	備考
卒業生	4,500	申込金1人につき500円(利用料金の内金)
家族・知人	4,500	
子供	2,500	子供(就園3才児~小学生)
日帰り利用	500	暖房期間中(費用1日200円)

(税金) 料理飲食等消費税+入湯税

その他施設によっては使用料をいただきます。

〈山中湖荘・かすが荘利用申込方法〉

香和会員は短大学生第二課へ

(申込みは窓口で受け付けます。ただし窓口に来られない方は60円切手を同封の上、申込書を請求して下さい。)

〒271 松戸市相模台531

聖徳学園短期大学 学生第二課

電話 (0473)65-1111 内線3183

附属聖徳中・高の「川並記念藤代プール」が、5月23日休、附属中・高の「川並記念プール」が6月6日休にそれぞれ「プール開き」の式を行ないました。

藤代校舎の当日はあいにくの曇り空でしたが、多数の保護者も出席して法要、きよめ式、川並校長の挨拶のあと、日本泳法、救助法が行なわれました。

附属中・高の当日は好天の中、シンクロナイズドスイミング・オリンピック代表のチームリーダー金子先生を迎えて、コーチや候補選手の「東京シンクロ」メンバーによって美しい模範演技が披露されました。目の前で繰り上げられる演技に、生徒はととても魅了されたようです。

ソーラー・システムによる温水、シンクロナイズドスイミングも可能な水深、水中監視用テレビなどの最新の設備を備えた公認の25M、7コースの定内温水プールがこれから中・高の教育の中で大きな役割を果たすものと期待されています。

また附属中・高に、小学校が61年春に開校します。



## 幼稚園の御案内

附属幼稚園 〒271 松戸市相模台531

附属第2幼稚園 〒270 松戸市小金原7-14

附属第3幼稚園 〒286 成田市中台3-8

三田幼稚園 〒108 港区三田3-4-28

八王子中央幼稚園 〒193 八王子市栢田町1003

多摩中央幼稚園 〒192-03 八王子市鹿島1

# シリーズコンサート

川並記念講堂において、盛況のうちにおこなわれておりますシリーズコンサートも、第50回となりました。本学学生だけではなく、地域住民の参加も行なわれております。

皆様、おさそいあわせのうえ、ぜひ御鑑賞下さい。

※ 鑑賞ご希望、お問い合わせは、

TEL 0473 (65) 1111 (大代)

聖徳学園短期大学 音楽科分室まで

10月以降は

10/1 (月) バリ・ギャルド・レプブリケース吹奏楽団

10/6 (土) エドガー・クラブ

10/26 (金) ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団

10/27 (土) キングス・シンガーズ

10/31 (水) ペーター・シェライヤー

11/28 (水) スーク・トリオ

12/5 (水) ギリアン・ワイヤー

12/7 (金) バルリン放送交響楽団

以上の予定です。

▼7月11日に行われました、モスクワ芸術劇バレエ、『白鳥の湖』より、全ての客席を魅了しました。



## 聖徳学園創立50周年記念式典 挙行

昭和8年大森に、新井宿幼稚園と聖徳家政学院を川並香順先生が開校されて以来、50年という月日と共に歩み続け、又明日からの発展を祝って、昭和59年1月18日(水)午後2時より、日本武道館において、創立50周年式典が盛大に挙行されました。

会場となりました武道館は、学生・生徒・園児・本学教職員はもとより、各界の来賓の方々で埋めつくされたのでした。

記念式典は2時開始。鐘の音。そして東京交響楽団による演奏と共に、各学園(短大・養成所・中・高・幼稚園)それぞれの園旗11が入場し、川並弘昭学園長が園児に手を引かれ入場され、プログラムは進行されました。中でも中央アリーナにおいての学生による人文字は『聖』と『50』の文字を鮮やかに、描き出したのです。

理事長・学園長式辞があり、森喜朗文部大臣・佐藤朝日本私学振興財団理事長のお二人より祝辞を頂き、来賓紹介、創立50周年記念曲、作詩：川並弘昭、作曲：近衛秀健。記念讃歌「聖徳の日は新たなり」そして、作詩：川並弘昭、作曲：黛敏郎。想園歌「青春の風は胸に鳴る」の二曲が演奏されました。

学園長から「明日への展望」が述べられ、幼稚園児・生徒・学生それぞれの代表が、感謝の言葉を述べ、園児たちより学園長に花束が贈られ、フィナーレの幼稚園園歌の合唱となりました。

そして、青木星光学園監事より閉式の辞があり、終了となりました。

又、午後6時30分より帝国ホテル(孔雀の間)において、創立50周年記念祝賀会が行なわれました。総合司会に高橋圭三氏を迎え、会が進行されたのです。祝典讃歌が披露され、理事長・名誉学長・来賓祝辞が述べられ、乾杯となりました。モニターで武道館での式典の様子がVTRで紹介されました。又スペースコーナーのゲストとして、バギー葉山・デュークエイセスを迎え、歌・スライド・ナレーションを織り混ぜながら学園の50年の歴史を紹介したのです。

そして、ナレーションと共に想園歌の音楽が流れ、河村理事の発声で万歳三唱となり、創立50周年記念行事は終了いたしました。

又香和会からも、会長をはじめ多くの会員が参加されました。

お忙しい中を、この式典の為に、森喜朗文部大臣より祝辞を承りました。

## 祝辞

### 文部大臣 森 喜朗

ご紹介をいただきました、文部大臣の森喜朗でございます。文部大臣になりたてのほやほやでございます。しかも、私立学校のこうした式典でご挨拶をさせていただくのも、実は今日が初めてでございますから、文部大臣として外に出て、ご挨拶申し上げる、今日が第一声でありまして、大変私いまい川並先生のお話を承りながら、感動いたしました。

のちほど、おそらく日本の私学をとっても大事にする、私学振興財団の佐藤先生がきつとご挨拶されますが、そのお隣にいらっしゃるのが、茨城県の葉梨信行先生、そのお隣にいらっしゃるのが、千葉県友納武人先生、そして一人おいて、ちょっと若い先生がいらっしゃいますが、千葉県の参議院議員の倉田寛之先生、さっき申し上げたお二人、葉梨先生それから友納先生は衆議院、そして友納先生のお隣は、文部省の管理局長です。いままでは東京大学や京都大学を出ないと、なかなか偉くならなかったことも多かったのですが、その文部省、いや建設省も大蔵省もお役所みんな含めて、私立大学で初めて局長になった方が、そこにいらっしゃる柳川覚治さんです。この前、参議院選挙で国会に出てこられました。この先生方がきつとお話をなさるほうが、本当は今日の聖徳学園の50周年のお祝いに最もふさわしいだろうと思いますが、理事長さんがおっしゃったように、時間もありませんから、きつと割愛されるんじゃないかなと思いましたが、ちょっと私からご紹介申し上げて、私よりもいまい申し上げた四人の先生方のほうが、もっともって聖徳学園のために、日頃、たいへんご努力をして下さっている方々ですよということを、どうぞ会場のみなさん、よく覚えておいていただきたいのです。私は、文部大臣になりたてのほやほやで、たまたま文部大臣だからこへ来て、ご挨拶をさせていただけるという光栄でございますので、ちょっと余計なことかもしれませんが、けれども、ご紹介かたがた、そして先生方にかわって、一緒の気持ちでご挨拶をさせていただくことを、たいへん光栄に思っている次第でございます。

さて、書いたのがありますので、真心を込めて拝読をさせていただきます。

本日ここに、聖徳学園創立50周年記念式典が挙行されるにあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

本学園は、昭和8年、故川並善順・孝子両先生が、女子及び幼児に対する教育の重要性に思いをいたされ、また知・情・意に通じた豊かな人格を育成するためには、仏教精神に基づく教育が必要であるとの考

えから、これを自ら実践すべく、聖徳家政学院及び新井宿幼稚園を設立されたことに始まります。以来、本学園は幾多の困難を克服しつつ、時代の変遷とともに、着実な発展を遂げ、今日、聖徳学園短期大学をはじめ、高等学校、中学校、幼稚園、専修学校を合わせ擁する充実した学園の姿を誇るに至っておりますことは、誠に慶びにたえません。

この間、本学園は、建学の理念である「和の精神」に基づき、個性豊かな、しかも協調性ある人格の育成、社会の変化に適応し得る人材の育成、高い知性と豊かな情操を兼ね備えた婦人の育成を目標として、活発な教育研究活動を展開され、わが国の女子教育に多大の貢献をされてこられましたことは、広く世人の認めるところであります。

本学園が、今日このような隆盛を見、各方面から高い評価を得ておりますことは、ひとえに創立者をはじめ、歴代役員、教職員各位のたゆみない努力と、父母・校友、その他関係者の熱意あふれる協力の賜物であり、この機会に深く敬意を表する次第であります。

近年、職場への女性の進出をはじめ、実社会の各方面における女性の活躍にはめざましいものがありますが、また同時に家族の結合、家庭教育のあり方など、社会生活の基盤である家庭の意義、母親の役割も問われ直されているところであります。

かかる時代にあつて、念願とする中学校、高等学校の開校を見るなど、一貫性ある女子教育の実施を推進しておられる本学園に対し、各界から寄せられる期待は、ますます大きいものと信じます。

役員、教職員各位、並びに学生・生徒諸君におかれましては、本日の光輝ある創立50周年記念式典を契機として、さらに相互の親和を深め、伝統ある学風のもとに、今後一層の研究を積まれますよう期待するとともに、本学園のますますの発展を心から祈念をいたす次第でございます。



祝辞を述べられる、森喜朗文部大臣



先ほど、川並理事長のお話を承っておりまして、思わず涙ぐむところもございまして、本当に感動いたしました。ちょっとケラケラッと笑った子もいましたけれども、それもそれなりの、またもの見方かなと思っております。幼稚園のお子さんたち、きっとわからなかっただろうと思うのです。でも真面目に一生懸命理事長先生のお話を行儀よく聞いていただきました。いちばん聞いていただきたい短大の生徒さんたちが、ちょっとコックリ、コックリしておられたことが、日頃勉強にお疲れになっているんだなと思って、文部大臣としてもたいへん、これまた嬉しく思いました。

川並先生は、私の大学の四年先輩であります。私と四つしか違いませんが、たいへんご苦労が多いだけに、ちょっと老けて見えます。でも、学校のことを一生懸命に考え、そして創始者であるご先代—お父さま、お母さまが苦労してつくってこられたことを、ここに、日本でいちばん大きな武道館で、こんなに大勢のみなさんと一緒に50周年の歴史をお祝いできる……。私は、大へん苦しかっただけに、改めて喜びを大きくみなさんと分かち合うことに、今日のこの式典は、大きな意義があり、創立者は今日を思っておそらく生涯の命を私は捧げられたのではないかな、こんなふうに思った次第です。

みなさん、人間と動物とはどこが違うと思いますか。私の娘が中学三年生です。聞くといろんなことをいいます。例えばおサルと人間、どう違うんだ。お尻が赤いよと、こういう。人間だってお尻赤くすれば、それでいいわけです。這って歩きます。人間だって這って歩こうと思えば歩けるんです。人間と動物の違いは一つあるのです。それは、人間は歴史を継承しているのです。

『キタキツネ物語』という映画がありましたが、僕はテレビで見たんです。娘と一緒に見ようというので見たんです。素晴らしい、とっても面白い映画でしたけれども、いちばん感動したのは、お父さんのキタキツネが、五匹の子供を一生懸命育てて、これを食べちゃいけないよ、こんなものが来たら逃げなさいよ、ここに入ってはいけないよ、一生懸命、体でお父さんが教えます。ある年数を経たら、突然お父さんがきちがいのようになって子供たちにおどろかかりました。ご覧になった方は知ってるでしょう。お父さんが気が狂ったようになって、五匹の自分の子供たちに襲いかかると。初め冗談でじゃれているのかなあと子供が思っているうちに、お父さんは本気で怒っていることがわかるんです。お父さんが目の届くところにいると、お父さんが飛んできて、ガブッと噛みつく。ですから子ギツネは、だんだんお父さんのそばから、どんどん離れていくんです。

何をお父さんがいいたかったのか。——もう大きくなったんだぞ、お前はもう一人前じゃない、一匹前に

なったんだから、お父さんと一緒にいてはいけないよ、みんなと一緒にいると、人間やオオカミやイヌやクマやほかの動物が来て、食べられちゃいますよ、一匹で生きていきなさいよ。口でいえないから、お父さんが怒ったような形相を見せて、お父さんのそばから、どんどん、どんどん追い散らしていくんです。

五匹のキツネはみんな悲しそうに、お父さんのそばからだんだん遠ざかって、一匹で生活を始めるんです。いちばん下の小さな可愛い子ギツネだけが、お父さんのそばから離れられなくて、近くにいたばかりに、イヌなんかに食い殺されてしまいました。動物ってとってもかわいそうなものです。

みなさんの家にいるネコだってそうでしょう、イヌだってそうでしょう。親子一緒に住んでるのは珍しいことであって、自分の生んだ子がどこかへ行ったのか、自分を生んでくれたお母さんネコがどこにいるんだらうか。ネコもイヌも、誰も知らないんです。

でも人間は違うのです。お父さんやお母さん、お祖父ちゃん、お祖母ちゃん、みんな一緒にいるのです。たとえ東京にいても、大阪にいても、北海道にいても、お祖父ちゃんは故郷の秋田にいても、千葉にいても、電話で話すことができます。手紙もやりとりできます。お盆になったら、みんな集まってきます。お祭にもみんな集まってきます。そこが、人間の社会なんです。つまり、歴史を大事に、大事に、次の世代に残していくということができていることが、動物と人間の違いです。

川並理事長がいまお話されたことは、みなさんから見ると、ずいぶん長い式辞で、いやだなあと思われたかも知れませんが、お父さんやお母さんが、日本のいいお母さんをつくりたいなと、こう思っておつくりになったこの学園を、50年はアッという間に過ぎ去った50年間かもしれませんが、この間、日本はたいへん大きな激しい動きをした時代です。その厳しい時代のなかで、この学園が堂々と立派になってこられた。その立派な歴史をいまの理事長さんが、多くの諸先生のお力を借り、みなさんのお父さんやお母さんのお力を借り、先輩の力を借りて、立派に歴史をここまでもってきました。この歴史をまた次の百年まで努力して残していかなきゃならん。川並先生が50年以降まで生きていけるとは思いませんが、きっとその気持ちを受け継いでくださったみなさんが、聖徳学園を立派にしよう、聖徳学園を巣立って、いいお母さんになって、またいい子どもたちをたくさんつくって、ひょっとしたらその子どもたちがまた聖徳学園で学べるかもしれない。ほかの学校へ行ったらいいのです。でもやっぱり、聖徳学園の大事な大事な精神や伝統は、日本のなかにだんだん、だんだん広がっていく。それが教育ですし、それが動物のできない、人間にしかできない、歴史を大切に、先の世代、次の世代へもっていくとい

うことの素晴らしい営みなのだということを、理事長先生のお話を承りながら、私もついつい、原稿に書いてないけれど、みなさんにそんなことをお話ししてみたいくなりました。

どうぞみなさん、いまの日本でいちばん必要なことは、教育改革がどうだとか、受験がどうだとか、非行少年がどうだとか、学園内暴力だとか、いろんなことがありますけれども、いちばん基本の大事なところは、家庭を大事にすることです。その家庭の中心が、お母さんです。どうぞ、日本のいいお母さんになるように、聖徳学園のみなさんが率先していいお母さんになって、いい日本の歴史を後世に残す、その大事な事業をみなさんがやって下さったなら、先代の川並先生のお父さん、お母さん、きつといま天国で大拍手をして喜んで下さるのではないかな、こんなふうに思いました。

たいへん余計なことを申し上げましたが、どうぞひとつの百年を目指して、みなさん頑張って下さい。心からお祝い申し上げて、お祝いのご挨拶といたします。おめでとうございます。

## 明日への展望

理事長・学園長 川並弘昭

ただいま、この場に立って、私の胸に一つの道しるべがくっきりと写し出されております。その道しるべは、50年の雨や風にも朽ちず、いつも明るい光を浴びながら、我々の進むべき道をはっきりと示しています。それは、どんな激動の時代にも、教え子の特性を生かし、若い魂から限りない可能性を引き出すための指針となりました。

私はこれまで、目を輝かせて学園をとりたてていった沢山の卒業生の彼女たちが、各界の職場で周囲の人々から愛され、元気で働いている姿に出会ったり、素

晴らしい家庭を築いている主婦や母親になった顔を見るにつけ、この道しるべに一点の誤りもないことを知るのでした。

聖徳学園の創立者、川並香順先生は、半世紀の昔、その趣旨を「和」でとらえ、それを建学の精神とつけてきました。ひと口に「和」と申しましても、この建学の精神を包む創立者の理想とか、情熱とか、信念、そういったものが私には力強く、そして偉大に感じられ、それを守ることが私の使命であると思うのです。私学の教育は、この建学の精神に賛同する同志の集まりでなくてはならないのです。

いま一部で、教育の危機が叫ばれております。けれども、本学園での教育の根本は、目先の知育にとらわれることなく「和」の精神によって、感謝のできるあたたかい思いやりのある心を持つ人を育てることではないかと思うのです。

おもえば、50年の歴史の重みに耐え、新しい夜明けの願いを込めて、教育の道を歩みはくくみ続けた先覚の創立者があっての今日であります。その半世紀の突りは、まことに大きいといわねばなりません。

いま、この晴れやかな喜びの集いの日を迎え、心新たにさらに大きな花を咲かせ、学園創立者の献立としたいと願うのであります。

奇しくも創立の年に生まれた私は、聖徳学園のきざむ歴史そのものが、私自身の歳なのであります。しかし、私は今日の日を新たな出発点として、100年に向かって学生、生徒、園児とともに歩む覚悟であります。そのためには、あくまでも本学園の創立者の定めた、「和の精神」を礎とし、それを守り、その伝統を受け継いでいくことが、私に課せられた使命であり、創立者の理想とした、よりよい教育はよりよい環境から生まれるという言葉信じ、この学園を思う多くの方々のお力を拝借し、新しい学園、素晴らしい教育の場をつくることを念頭といたしております。

▼50周年を祝って『50』の人文誌



聖徳学園創立五十周年記念祝典讃歌

『聖徳の日は新たなり』

作詞 川並 弘昭  
作曲 近衛 秀健

△序章▽

日はめぐり 陽は昇る  
日は新たなり  
遠き先祖の 教えし道は  
みどりなす 愛の光り  
和のころ  
ゆかりの歴史 誇りあり  
健やかにことほぎて  
いまぞ讃えん 友よ歌わん  
その名も清く美しい  
ああ聖徳 聖徳学園  
我が学び舎に  
永遠に幸あれ  
溢れくる 溢れくる  
希望を胸に  
はるかなる未来  
学びの情開け行く  
育みの道 ひとすじに  
手をとりたずさえ  
この歌びを伝えつつ  
仰ぐ光りを 進み行く  
▲歴章▽  
時うつり 時めぐり  
日は新たなり

久しき理想かかげまもりて

繁みなす 愛の光り

和のころ

薫りてゆかし 花咲けり

もろとも ことほぎて

いまぞ讃えん 友よ歌わん

その名も高く 聖らなる

ああ聖徳 聖徳学園

我が学び舎に

永遠に幸あれ

流れくる 流れくる

想いは遙か

光りうつせし

心の鏡 くもりなし

真理の道 ひとすじに

手をとりたずさえ

この歌びを伝えつつ

仰ぐ世界を 進み行く

▲終章▽

想えば遠き歳月に

誓いも新た 日も新た

輝けり 輝けり ああ

聖徳の日は新たなり



▶「想国歌」の作曲者近衛敏郎氏と作詞者学長先生

聖徳学園想国歌

『青春の風は胸に鳴る』

作詞 川並 弘昭  
作曲 黛 敏郎

一、いま青春 燃えてひかる

ふれあいの友 わが学び舎よ

つよく やさしく 美しく

華の 女神の 栄冠を

理想と ともに 掲げよう

ああ 聖徳の

聖徳の 空たかく

風は鳴る 風は鳴る

青春の風は 胸に鳴る

二、いまみどり 萌えてひかる

学びの友ら 肩をくみあい

夢を 瞳に 輝やかせて

はるかな空を 仰ぐとき

生けるよろこび 遠い雲

ああ聖徳の

聖徳の 空たかく

風は鳴る 風は鳴る

青春の風は 胸に鳴る

三、いま歌う 青春のとき

若いのちのよろこびを

高い希望に燃えながら

未来の栄光 ひとすじに

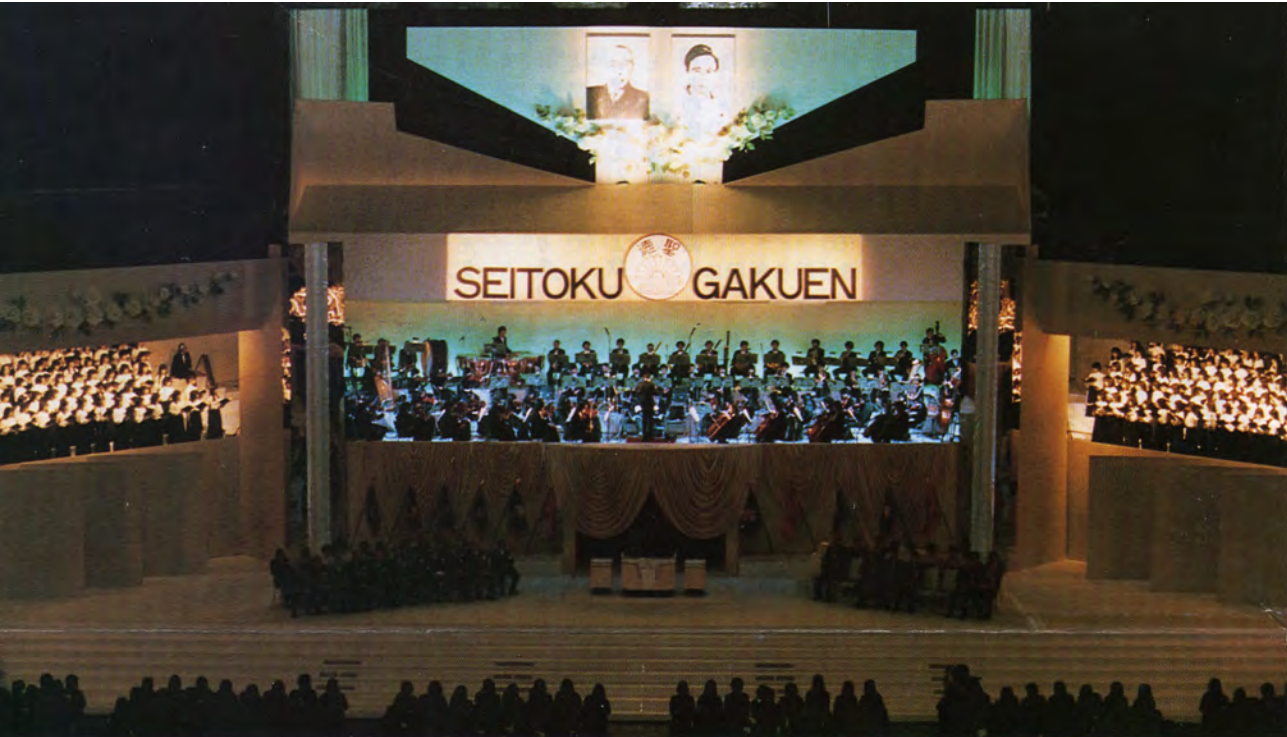
花と薫りて 咲き匂う

ああ聖徳の

聖徳の 空たかく

風は鳴る 風は鳴る

青春の風は 胸に鳴る



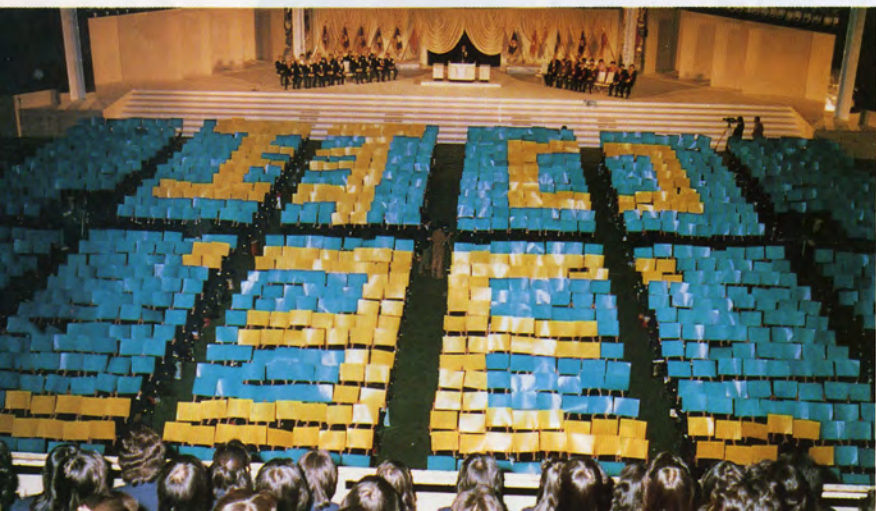
▲日本武道館の記念式典舞台

▼学長先生が園児に手をひかれ入場されました！



▲帝国ホテル（孔雀の間）での記念祝賀会

▼鮮やかに描かれた人文字『聖』



発行所 聖徳学園短期大学 香和会  
 〒271 松戸市相模台531  
 ☎0473-65-1111 (大代)  
 発行人 鈴木恵子  
 印刷所 株式会社 集美堂  
 千代田区神田錦町2-9